第１学年３組　国語科学習指導案

平成１７年１０月２８日（金）　２校時

１　単元名

よく見てかこう　「しらせたいな，見せたいな」

２　単元の目標

・知らせたいことや見せたいことを考えながら，相手に分かるように書くことができる。（書ア）
・書こうとする題材に必要な事柄をよく観察して書くことができる。（書イ）
・自分が知らせたいことを順序を考えて書くことができる。（書ウ）
・書いた文を読み直す習慣をつけ，間違いを見つけることができる。（書オ）
・句点に注意して文を書くことができる。（言ウ（ィ））

３　単元について

学校生活は児童にとって学習から休み時間まで様々な体験ができる場である。その中で児童は誰かに「知らせたいな」「見せたいな」と思っている物や場所に出会うだろう。それは飼育している小鳥かも知れない。校庭の木の実かも知れない。もちろん，児童らはすぐ「聞いて，聞いて。」「あのね。」と口頭で伝えたくなるだろうし，それが１年生の日常である。そして様々な体験と思いを持っていても新しいことが積み重なる度にその前の小さな感動を忘れてしまうものである。それらの感動を，よく観察して，文章に書いて表現しようとする単元である。この単元で思いを「書いて知らせる」ことで自分が書いたものを相手が読んで理解し，「紹介されたものを見てみたい」と相手の心を動かす喜びをぜひ体験させ，自信を持たせていきたい。

これまでの国語の学習で気持ちを伝える活動は，「話す」方法で一度体験している。夏休み明けの「みんなにしらせたいこと」で，夏休みに楽しかったことの発表会をしている。ここでは，思い出カードとメモを作り，伝えたいことを「はじめ」・「なか」・「おわり」の３部に構成する学習をしている。児童は話すことには意欲があっても聞く意欲はなかなか続かない。耳だけでなく眼差しで聞き，質問をしたり感想を伝えたりといった心構えも指導し，学び合える雰囲気作りを目指している。

「書く」活動では，１学期の終わりに「てがみをかこう」で相手と目的を考えて手紙を書く活動をしている。手紙は入学前にお世話になった幼稚園，保育園の先生に対して学校でのことについて書いた。

そして，本単元は作文で伝える学習である。本単元では，誰に・何を・どんな目的で書くかを意識させて書く活動をする。知らせたい物の絵と見つけたことをかいたカード，それを知らせる文章を例示している。絵を手がかりに細かいところを見つけ，書きたいことをはっきりさせてから文章を書くという流れは，１年生にとって取り組みやすい表現活動だろう。学び合いの場として作文のメモの内容を二人組で検討する。これらの活動を通して相手に伝えるために文章の組み立てを考えたり表現を工夫したりし，そして書いた文章は推敲し，必要に応じて修正する。このような書く学習の初歩を，本教材を通じて行うのである。

関連する教材としては，生活科「そとにいこうよ」「どうぶつを見にいこう」「いきものをさがそう」がある。校庭を探検していろいろなものを見つける活動をしている。児童はバッタやトンボ，シャクトリムシやナメクジまでいろいろな生き物に親しみ，オオバコで相撲をしたりスズカケの木の音を聞いたりして植物にも親しんでいる。そして実に様々な出会いをし，獲物を捕らえた喜びであったり，自然の不思議に気づいたつぶやきであったり，その時々の気持ちを言葉にしている。好きなものがたくさんあり，それを友だちや家族，先生に知らせたいという気持ちは大きく，書くことに意欲的になれると思われる。これまでも生活科で探検した際に絵とメモを中心にした「見つけたよカード」をかいてきた。これらの活動で蓄積された体験を本単元に結びつけたい。

４　児童について

外で探検遊びをするのが大好きで，大休み時間になると校庭に飛び出していく児童が何人もいる。昆虫にも興味を持っていて，休み時間になると校庭の築山へ自分の虫かごを持って宝探しに行く児童が多い。

外で見つけた心に残ったことを小さなカードに書いて教室の「あきみつけコーナー」に掲示する活動をしている。昆虫を捕らえ損ねた児童でも，虫の様子をカードに書き，それを認めてやることで満足した表情を見せることもある。虫採りや木の実拾いは一人でするより仲間がいて，見せ合ってこそ，より楽しいものである。なかよく高め合える仲間になることを願っている。

＜児童の作文に対しての意識調査（男児童２１名　女児童１８名　計３９名）＞

作文を書くのは好きですか。好き１９名　　ふつう１０名　　嫌い１０名

好きなわけ	発表できなかったことも書いて表現すれば知らせることができるから。 書くことが好きだから。 たくさん書くとがんばった気持ちになるから。
嫌いなわけ	何を書くといいのか分からないから。 字を書くのが苦手だから。 めんどうだから。

漢字の学習は好きですか。　好き３１名　　嫌い　８名

始まったばかりの漢字の学習は意欲を持って取り組んでいる児童が多い。書くことが嫌いと答えていた児童のなかには注意が散漫でなかなか学習に取りかかることができない児童がいる。また，作文を書くことが嫌いと答えた児童でも，同時に作文を書くことが好きな理由も進んで答えている児童もいる。この段階の児童の意識はこれからの出会いと経験で高まっていくことが期待できる。書いて表現することに自信が持てるように支援していきたい。

これから経験を重ねて文字を書くことと作文の書き方を知ることで，自信を持ち，書くことへの意欲も高まっていくと考える。一人一人の書く速さと力に合わせて支援し，どの児童も作品を仕上げることができるように支援していきたい。

思いを伝える活動では国語の２学期最初の単元である「はっきりはなそう・みんなにしらせたいこと」でメモを作って話す活動をした。何について話すかを決めた後に，話す内容を黄・ピンク，青の紙にそれぞれ「はじめ」・「なか」・「おわり」に分けて書き，それを元に話をした。また，朝の会の時に日直二人ずつが簡単なスピーチと質問・応答を行っている。スピーチを行う準備をするのに「はっきりはなそう・みんなにしらせたいこと」で使った黄・ピンク・青の紙を利用して話の組み立てを考えてから話す児童もいる。

書く活動では，１学期の終わりの「手紙を書こう」では入学前にお世話になった幼稚園・保育園の先生に小学生になってからできるようになったことを手紙に書いて送った。２学期になってからは「あのねきいてねノート」を使い，日記を書く活動を始めているが書く力には差が大きく，何ページも日記を詳しく書くことができる児童も，黒板の連絡事項をノートに書くことさえやっとの児童もいる。

今回の学習で書く順序を考えたり，書き方を覚えたりして，書くための技能の第一歩を身につけさせたい。

○幼小連携について

入学前にどのような書く学習を行っているかについて，竹里・和田・上北野の３保育園にアンケート調査を依頼した。

４歳児中頃・・・色鉛筆や鉛筆を持ち始め，線遊びを経験するなかで鉛筆の持ち方，姿勢，手首の使い方，筆圧を身に付ける

５歳児からは・・ワークブックでひらがなの書き方を学習する。
はね，はらい，文字の形を一人一人指導する。

最低でも自分の名前は正確に書くことができるようにする。

作文学習・・・・園内でのお手紙遊び。実際にはがきに書いて投函したり，祖父母に年賀状を書いたりする。

七夕の短冊やプレゼントのカードを作る。

自分の思いを作文し，自分で清書し，卒園文集をつくる。

どの児童も入学以前にほぼこのような活動を経験しているようである。ただし，各児童の興味に合わせて活動を進めており，無理強いにはならないように配慮しているようである。入学後はこれらの経験により自信をもって学習に取り組むことができていると考える。もちろん児童により差があり，入学時からひらがなカタカナ両方を使って文を書くことができる児童も，ひらがなで名前を書くこともやっとで，筆圧も不安定な児童もいる。どの児童も自信を持って学習に取り組めるように個別指導をしてきた。

入学後の１学期には，入学してからできるようになったことを文と絵にした手紙を書き，保育園・幼稚園でお世話になった先生に送った。

手紙は１年担任が保育園に届けた。その際に，保育園の頃の様児童と入学してからの成長した様児童を話し合ったり，手紙へのお返事を受け取ったりした。これらの交流で，園での活動や生活習慣を知り，また小学校での生活についても知らせた。

保育園での学習に比べて小学校の学習は,より自主的に判断し活動する範囲が大きくなる。そして，さらに集団の中での学び合いを生かして行う学習である。本単元はそのなかで自分がやりたいことを決めて作文を書く。様々な方法で自分の思いを表現することができるように，保育園と連携し，互いの活動を理解していきたい。

これから次年度入学する園児を迎えての「新１年を迎える会」を計画している。その際，園児に学校のなかの教えてあげたいことを伝える際にも今回の本教材で経験したことを生かしていきたい。

５　指導について

〇学習への興味・関心を高め，学び合いを深めるために

本時の前に，伝えたいことの絵をかき，まずは自分で気がついたこと，思いついたことを書いておく。二人組という単位で質問をし合うことで気づかなかった視点や更に詳しく観察する視点を得ることができる。落ち着いて相手に答える時間を取るために今回は児童の好きなお手紙の形式を取り入れてえんぴつで書き合わせることで落ち着いて考える雰囲気をつくりたい。えんぴつ対談をする二人組は学び合う最小の単位であるが，近くの席の児童と組み合わせを代えることで更に学び合う機会を増やすことができる。質問したり，答えたりすることで自分が気づかなかった詳しい様子に気づくことができ，新たな視点を学び合うことができる。更に友だちのよいところを見つけ，認め合うことで自信を持たせ，意欲を高めさせたい。また，よい質問や答えがあれば巡視した際に丸をつけてやったり広めたりして自信を持たせたい。また，質問を受けてより詳しく答えるために，教室内には実物や写真を準備しておきたい。

指導計画の２時間目に自分が作文に書くことを決める。「あきみつけコーナー」を見に行ったりファイルを見たりさせて決めさせる。その際可能なら実物を改めて見に行き，本当にそのことを書きたいのかもう一度意識させたい。

思いを伝える意欲はあっても,どんなことを話していいのか整理されていないことが多い。

何をしたらよいか分からない児童には「掲示コーナー」の他の児童の発見を見直させ，自分のこれまでの気づきを振り返らせて知らせたいことを絞り，作文の流れの型を示して相手に分かりやすく表現する手順を指導したい。この経験を通して書くことの抵抗を薄めていきたい。

〇経験を蓄えさせる

生活科の学習とこの学習を関連づけて意欲を高めていく。虫を探して見つけたり，学級で大切にしている生き物の世話をしたりする過程で，だれかに「知らせたい」という気持ちが生まれてくる場合が多い。愛情をもって対象と関わる時間を大切にし，「知らせたい」という思いをたくさんもたせていく。

学校ではセキセイインコを飼育している。児童は大好きでよく見ている。しかしセキセイ

インコでは触れ合うことはほとんどできない。そこで児童が捕まえた昆虫やザリガニを持ってきたり，自宅で飼育しているチャボを連れて来たりした。また，動物福祉協会の方にお願いしてイヌ，ネコ，ウサギを学校に連れてきてもらい，触れ合う活動も行った。テレビ，ビデオ等の情報で断片的に生き物の情報は持っていて，動物のことをよくよく知っている気持ちになっているものだが，体験に勝るものはない。目を輝かせて動物たちの様子を観察したり，触れ合ったりしていた。国語の「ずうっと，ずっと，大すきだよ」の学習でも，これら生き物との触れ合いの体験を生かして想像を広げさせたい。

「見つけたよカード」や「あきみつけコーナー」等の記録も作文のたねの蓄えとして生かすことができるよう，いつでも振り返ることができるところに掲示しておく。友だちのカードを見ることで，絵のかき方や視点を参考にでき，互いに学び合うことができる。また，「見つけたよカード」を綴じた生活科のファイルも見直させ，作文のたねとして活用させたい。

○相手と目的をはっきりさせて

この学習の目標は学校生活のことを家の人に知らせることである。大好きな家の人に，一緒に学校にいなくても学校の大好きなものの様子が伝わるような作文にしたい。この学習を始めるにあたって，家の人に目標と学習の進め方をお便りで知らせておき，話題にして頂いたり励まして頂いたりして，意欲を持って学習に取り組むことを目指したい。作文の題材が決まったらカードに書いて連絡帳に貼付して知らせる。このようにして，家の人に対して知らせるという目的を確認しながら学習を進め，書き上がった作文を読んでもらった際には家の人からも感想を書いて頂くようお願いしておく。この感想もよいところを見つけて誉めてもらうようお願いしておき，自信と達成感を味わわせたい。

○書き方の指導について

本時でメモに書いた内容は，その次の時間には短冊のカードに書き，作文にする際に並べ替えて順番を考えるための手がかりとする。使用する短冊にはマス目を印刷しておき，メモの一つの項目が基本的には一段落になるように書かせる。この作業時に段落の初めは一文字下げることと句点（。）を打つことも指導しておきたい。そして完成した短冊を並べ替え，原稿用紙に書き写したら清書になるようにしておく。

また，書いた文章を読み返すという習慣を身につけさせたい。教科書Ｐ２３では特に丸（。）表記記号の見直しを促している。文の終わりに丸をつけることは，上巻「ことばをいれて，ぶんをつくろう」で学習した。読み返すなかできちんと書けているかどうか点検し，できるだけ自分で直させたい。

ただ読点（、）の打ち方は句点（。）ほど簡単ではない。ここでは，読点を単語や文節の途中に打つ，というような明らかにおかしい場合を除いてはあまり厳しくせず，おおらかに対応するようにしたい。

6　指導計画（８時間配当）

時	学習内容	ねらい	関	話聞	書	読	言	評価規準
1 2	知らせたいことを決めよう	学習の進め方をはっきりさせる。 知らせたいものをよく考える。	◎	○				家の人に知らせたい物を見つけることができる。（観察・発言）
3	「見つけたカード」を作ろう	絵を描くときのめあてを確かめて，知らせたい物の絵を「見つけたカード」に丁寧にかく。			◎			知らせたいことを「見つけたカード」にかくことができる。（見つけたカード）
		カードに書き込む内		○	◎			友だちのカードを見て，分からない

4（本時）		容を確かめ，カードに見つけたことを書き込む。 カードをグループで見せ合い，カードに書き込むことを増やす。						ことを質問し合うことができる。質問に対して答え，カードに書き込むことができる。 （観察・発言・見つけたカード・付箋）
5 6	「見つけたカード」を使って文章を書こう	書き込みを文にし，短冊カードに書き，並べて順番を考える。			◎		○	書いた文を，句点や文字に気をつけて読み返し，間違いを直すことができる。（短冊カード）
7		文章の順番を検討し，書き出しを考え，見直し，間違いを直したり書き足したりする。			◎	○		カードを使って考えた順番をもとに文章が書けている。（短冊カード）
8		友だちの書いた文章を読んで感想を伝える。家の人に読んでもらう。	◎					友だちどうしで見せ合い，お互いの文章のいいところを認め合い，伝え合う。（一言感想メモ）

7　本時の目標

　見つけたカードをグループで質問しあって，カードの書き込みを増やし，文章にする準備をすることができる。

8　準備物

知らせたいものの絵をかいた見つけたカード

　付箋（目＝青　耳＝黄　鼻＝緑　感じ＝ピンク　味・その他＝白）

演示用ワークシート　演示用付箋カード

9　本時の学習過程

学習過程	支援（・）と評価（☆）
○本時の学習課題を確認する。 見つけたカードのなかみをふやそう。 ○教師の提示した見つけたカードに対して質問を考える。 ○質問の答え方，付箋の書き方を知る。 （えんぴつ対談） ・付箋の糊のついた面に質問，表に答えを書き，自分の見つけたカードに貼っていくことを確かめる。 付箋の色分けについて知り，いろいろな色がそろう方がより詳しい作文になるこ	・質問・応答を付箋に鉛筆で書き合う，えんぴつ対談のやり方を児童と一緒に演示する。 ・相手との会話は付箋の表と裏に書いてする。友だちが書き終わるまで，静かに待つことを確かめる。 約束　しゃべるのはえんぴつだけ しつもんはのりのめん こたえはおもて じかんいっぱいかんがえる

とを確認する。 見る・聞く，触る，におい，味，その他，といった視点を確かめる。	
○二人組になって質問し合う。 質問が浮かんだ人からスタートする。 両方が浮かんだ場合は静かにじゃんけんで順番を決めてスタートする。 一つ質問をして答えたら，一つ質問を返す。	・書くことが苦手な児童には支援員が個別指導をする。 ・質問に困っているときは，児童の付箋の色を見て，足りない色のカードを示してやる。 ・教室には実物や写真を準備しておき，質問に答えられないときは実物をよく見て答えられるようにする。 ・巡視して質問のいいところ，答えがうまくできれば誉める。
○同じグループの中で相手を代えて質問し合う。	・質問の視点が広がるように，よいやりとりがあれば紹介する。 ・相手を交代する。前後の児童どうしでもさせる。 ☆友だちとえんぴつ対談形式で，質問したり答えたりすることができる。 （書く･･･見つけたカードに添付した付箋）
○付箋紙がどれくらい増えたか確認する。 友だちと質問し合うことで気づいたことについて発表し，よかったことを認め合う。	・よい質問ができるといい答えができ，豊かな気づきができることを押さえる。 ☆友だちとのやりとりのよかったことを認めることができる。（話す聞く･･･発表）
○次時の予告 次時はこの付箋紙を元に，一つのことを一枚ずつの短冊カードに書いていき，これを並べ替えて作文の組み立てを考えて作文を仕上げることを知る。	